



Botswana Medical Information



2018年4月

【医療機関訪問】

MedLane clinic

- 開院時間 月から金曜日 8:00～21:00
土曜日 10:00～16:00
日曜日 12:00～20:00 (5月より)
- 電話 318-4970
- 住所 Plot2775 Monong St. (Avani ホテル向かい, 白い建物)
- 診療科目 総合診療 (General Practice),
ワクチン外来 (小児用ワクチン, インフルエンザ, 黄熱, 狂犬病, 破傷風, A,
B型肝炎, 髄膜炎等) (事前に接種希望ワクチンがあるかお問い合わせください)
- 検査可能項目 血液検査, レントゲン, 超音波, 心電図
- 診察費: 270プラ + 検査費用等追加
- 米国大使館の顧問医をされているカマネ先生 (Dr.Kgamane) (女性) の診察日は, 月 13:00～17:00, 火 9:00～17:00, 水 13:00～17:00, 木 8:00～12:30, 金 9:00～17:00 です。物腰の柔らかかで, 医務官も何かと相談させて頂いているドクターです。旅行医学を専門とされています。緊急でなければ, 事前に診察予約と受診理由を述べて頂くとスムーズです。緊急の場合は開院時間に直接受診してください。マラリア予防薬 (マラロン等) の処方も可能です。
- 薬局も併設されているので, 処方薬をその場で購入することも可能です。とても清潔で新しいクリニックです。夜や土日の診療もあるので, 緊急時の受診も可能です。



クリニック 正面



クリニック受付とカマネ医師



レントゲン室



診察室

【当地マラリアの流行に関して】

ボツワナ保健省はマラリアに関する注意喚起を行っています。

当地のマラリアシーズンは、10月から5月末ごろまでです。マラリア発生の多い地域は、北部のオカバンゴ、チョベ地域ですが、今年は降雨の影響で南部、中部地域にも散発的に発生しています（発生 district :Okavango, Ngami, Chobe, Boteti, Tutume, North east, Tonata, Bobirwa, Palapye, Mahalapye, Serowe, Kgatleng, Kweneng, Moshupa）。

マラリアについて：

マラリア原虫が寄生するハマダラカに吸血される際に、マラリアが体内に感染します。マラリア原虫は、数種類いますが、当地のマラリアは、感染すると未治療では重症化する熱帯熱マラリアがほとんどです。蚊に刺された後、12日前後の無症状な期間を経て、発熱、頭痛、悪寒、腹痛、下痢などの症状をおこし、悪化すると意識不明、死に至ることもあります。

蚊に刺されないよう予防することと、流行地域から戻ったのち上記症状が出現した場合は早急に医療機関を受診することが重要です。流行地域へ渡航する前にマラリア予防薬を内服することも有効です。医療者と相談し、必要に応じて処方を受けてください。

当地医療機関を受診し、処方箋をもらい、薬局にて購入できます。

マラリアを媒介するハマダラカは日暮れから日の出にかけて吸血します。肌を覆う衣服、防蚊スプレー、蚊やで予防してください。

【新聞報道抜粋】

●ボツワナ労働者の賃金について

先週、ウエストゲートモールのチョッピーズスーパーマーケットにおいて、労働者によるストライキが行われ、1時間あたり5プラ（約50円）の賃金では生活できないことに対して抗議した。ボツワナ労働省が規定する最低賃金は5.14プラとなっているが、新しい政権が発足するにあたり、非熟練労働者の賃金格差と生活水準の改善が課題となる。

（1-7日サンデースタンダード）

●マハラペホスピス稼働

マハラペホスピスは2011年に建設されたが、コミュニティーホームベースケアボランティアへの予算がなかったため、ほぼ10年間利用されずに過ぎた。しかし現在マハラペ地域保健マネージメントチームとボランティアの間で対話がなされ、活用することをすすめている。（5日デイリーニュース紙）

●中国からの医療援助

15次中国医療チームがボツワナに派遣された。中国大使は、歓迎レセプションにて、医

療団により高度医療技術をもたらすだけでなく、臨床教育や講義を行うことにより、当地の医療者の技術向上に貢献している旨述べた。

医療チームは福建省から46人が派遣されており、22人がプリンセスマリーナ病院、22人がフランシスタウンのNyangabwe病院で勤務する。任期は2年。

医療チームの平均年齢は37才で、麻酔科医、泌尿器科医、産婦人科医、針師、腫瘍内科医、整形外科、小児科、眼科、集中治療室看護師、手術室看護師が含まれる。

(9日デイリーニュース)

●安全な割礼の推進に芸術家を動員

2017/2018 予算において、安全な割礼 (SMC) 推進プログラムは、830 万プラの予算を得た。そのうち360万がプロモーションに当てられた。

政府はSMC推進にエデュテイメントを利用し、芸術家を動員し、地方レベルでもヘルスポロモーション活動を勧めている。(11日デイリーニュース紙)

●Tutume 病院建設計画継続中

保健大臣は議会にて、Tutume における70床の初等病院の建設計画について説明した。

(16日デイリーニュース紙)

●ブラックタックス

大学を卒業したボツワナ人は、通常の税を支払う以外に、親類を経済的に助けなくてはいけないという道徳的義務である「ブラックタックス」が待っている。研究によると、家族内で大学卒が初めてである場合、このタックスが大変な負担となることが示されている。ある看護師の例によると、一人の給料で、両親、兄弟、遠い親戚まで扶養している。貧しい家庭からの大卒一世代目は、大学教育は機会の平等化に寄与しておらず、経済的困難な時の緩衝とも、良いときのバネにもならず、次世代への財産相続にも繋がらない。(15-21日サンデースタンドード)

●マシシ大統領目の健康について擁護する

英連邦サミットにおいて、マシシ大統領は「ポノ ヤム (私の視力)」という、学校の児童全員に早期視力の異常を発見するプログラムを現在から2021年まで取り組む旨述べた。このプログラムにより、ボツワナは世界で初めて児童全員に視力の改善をおこなうことになる。プログラムは非営利組織である Peek Vision のパートナーシップのもと進められる。(19日デイリーニュース紙)

文責: 高原 野草 (在ボツワナ日本大使館医務官)